

児童・生徒の現状・課題

- ・校内研究を通して、日常的に文章を書く機会が増え、書く力が高まっている。
- ・自分や友達によさに気付くことが苦手な児童が一定数いる。
- ・自己有用感を感じられる児童が少ない。



学び続ける力を育むための重点目標

【研究主題】

すすんで伝え合う児童の育成～「学級会」を通して～

学級会の自主的実践的な活動を積み重ね、自他のよさに気付けるようにする。



児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(0月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	75.0	80.0	
②課題や問題に対して、自分の考えをもったり、行動に移したりすることができる	80.8	85.0	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	94.4	100	
②学習の目標の達成や学び方等について、振り返る場面を設定し、児童が達成感を味わったり、次の目標をもったりできるようにする。	83.3	90.0	

具体的な手だて①

話し合いが自分事になるように、何のために話し合うのかという「提案理由」を学級全体が共通認識した上で、話し合いに臨めるようにする。そのために、事前の活動で、提案理由を確認する時間を設ける。

具体的な手だて②

視点を明確にした振り返りを毎回行う。自分のよさ・友達によさという2つの視点で振り返り、児童が自他のよさに気付けるようにしていく。

具体的な手だて③

終末の助言では、学級会での児童の具体的な姿を取り上げ、価値付けを行う。よさだけではなく、学級の課題についても、児童から引き出せるようにする。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

「学力向上だより」を通して、各学級の具体的な実践を共有する。また、日ごろから互いに授業を見合う雰囲気をつくり、授業について気軽に情報交換できるようにする。

総括(5月)

学び続ける力の育成に向けて、本校では、校内研究を授業改革の軸に据える。校内研究では、児童が互いの考えを尊重しながら主体的に議論する学級会を目指す。学級会では、児童一人一人が学習のめあてをたて、授業後には振り返りを行う。振り返りでは、自分や友達によさを振り返ることにより、考えをもつことや行動に移そうという意識を高めていく。全校で方針を共有し、発達段階やクラスの実態にあった手だてを考えることで、それぞれがこれまでの授業の在り方を改革していけるようにする。

総括(1月)